



林町デイセンター（左：市役所・作品展 右：クリスマスツリー飾りつけ）

あゆみの家

No. 134号

成人を祝つ会

先日、あゆみの家のある事業所の土曜活動の中で「成人を祝つ会」がおこなわれました。その年度に成人を迎えられる利用者の方がおられる時におこなっているのですが、今年は職員のMさんが成人式を迎えられる年というので、ご本人には内緒で、スタッフ、利用者と計画し、サプライズでお祝いをしました。当日はMさんのお母様にもお越しいただき、あゆみの家で働いている姿を見て頂きました。

成人を祝つことのできる若い職員がいることは、大変嬉しいことです。あゆみの家には、若い職員が多くおり、その一人一人が毎日懸命に支援にあたっています。もちろん若い職員だけではなく、中堅職員、経験豊かなベテラン職員も、利用者の皆さまの人生がより充実し、より豊かなものとなるよう、日々、支援にあたっています。

しかし人手不足は深刻です。あゆみの家も例外ではありません。日本の人口が減少していく中、あらゆる業種で人手不足といわれていますが、福祉業界全体の人材不足は本当に深刻です。福祉について専門に学んでいる各種学校の学生でさえ、その半数以上が福祉以外の業種に就職をしていく時代となっています。福祉の仕事はしんどい、労働時間が不規則、給料が安いというイメージが一般的になってしまっています。そこで、今年度より、少しでも多くの学生に障がい福祉の仕事がどういうものなのか、どれだけ楽しく、やりがいのある仕事なのかを知ってもらう為、学生インターンシップの受け入れを積極的に実施しました。昨年の夏から、二月現在まで、九名の学生があゆみの家の各事業所で仕事体験をしてもらいました。「障がい福祉の仕事のイメージが変わり、すごく勉強になった。」と、参加した学生のほとんどが口を揃えて言ってくれました。

これから社会に出ていく若い世代に障がい福祉の魅力を伝え、種まきをしていくことも、私たちに課せられた大切な役割です。あゆみの家が、これからどのような人材を求め、その人材を確かなビジョンを持って育成をしていくのが重要です。次の世代、またその次の世代へとバトンを渡していくことができるよう、先日、成人を迎えた職員のような若い支援者が迷わず進んでいけるよう、これからあゆみの家の進む方向にしっかりと灯火をともしていきたいと思います。

ことばの力

理事 名和 桂子



「コロナに振りまわされてあっという間に三年が過ぎようとしています。核兵器を作り、最強の戦車を持ち、正確に標的を打ち壊すミサイルを持って自分たちの力を誇っていた人間が目に見えないウイルスの前に、いかなすすすべを持たない弱い存在であるかを、いやというほど思い知らされた三年でもありません。

大きな波が繰り返し起こってきて現在は第八波。下火になってきているようですが、第九波も来るのではないかと心配されています。五月からは第二類から第五類へと変更され、季節性のインフルエンザ並みの扱いになることが決まりましたが、コロナにかかった方の話を聞いても後遺症で深刻な症状が長く続く方もあったり、子どもたちでも目の痛みなど感染していない濃厚接触者にも出たりする例もあると聞いています。本当にやっかいな病気です。あゆみの家でもクラスターが発生したりして本当に大変だったと思います。職員の方々の献身的な働きに心から感謝しております。また、三年もの長きに渡って帰省も外出も集会もいろいろと制限され、その中で我慢して下さっている利用者の方々もとてもありがたく思っています。第九波など来ないで早く静まってほしいと願うばかりです。この三年間いろいろなことが変わりました。もちろん良いこともありました。また、心配なこともあります。今マスクをどうするかということが議論されています。これから迎える卒業式でマスクをするべきか、しなくてもよいかなど。

世界をみるとほとんどの国がマスクの義務化を撤廃しているようです。イギリスでは昨年の一月から、アメリカでは三月、フランスでは五月、韓国では今年の一月から、ドイツでは二月から、等々、海外ではマスクをはずすことが常識になっているようです。それと比べて日本で調査するとマスクをつけないという人は二〇%、まわりの様子を見てからという人が三〇%、五〇〜六〇%の人はつけ続けるという結果が出たそうです。私自身、昔からマスクが大好きで冬になると必ずしています。まず、温かいということ、しわが隠れるということ、化粧品が半分の量ですむことなどが良いところです。しかし、この間気になる話を聞きました。保育園の小さな子どもが保育士さんのマスクをとった顔を見て泣き出したということです。生まれてから三年の間、身内以外はほとんどマスクをした顔しか見たことがなければ無理もないことかもしれません。学校がマスクを解禁しても多くの子どもたちは「とらない」「はずかしい」「感染が怖い」という声が返ってくるそうです。「表情が読みとれない」「何を考えているかわからない」などコミュニケーション能力を育むための大きな障害になっていることも心配すべきことではないでしょうか。今後、すぐマスクがいなくなる状況になるかどうかわかりません。

そこで私はこれからますます「ことばの力」がとても大切なものになってくるのではないかと考えています。人間だけに与えられている「ことばの力」をもっと活用してもちろんことばにかわる体の表現も含めていつもより一言、二言多く用いて相手とコミュニケーションをとるという工夫をしてはどうかと思いました。人と人とのつながりが希薄になりつつある今だからこそ「ことばの力」を用いてみたらもっと心が通じ合えるのではないのでしょうか。とにかく一日も早いコロナの終息を待ち望んでいます。

高次脳機能障がい支援事業

相談支援事業所 ゆう 相談支援専門員 橋本聖子

「高次脳機能障がい」という障がいを聞いたことはありますか？

最近では映画やドラマなどで取り上げられたこともあり、少しずつ知られるようになってきているでしょうか。

高次脳機能障がいとは、病気や事故などの様々な原因で脳に損傷を負ったことによって、新しいことが覚えられなくなる記憶障害、うっかりミスや不注意などの注意障害、物事を計画的に実行できない遂行機能障害などがよく知られる症状です。また対人関係がうまくいかない、感情のコントロールが難しくなるといった症状が見られる方もいます。外見では分かりにくく、脳の損傷箇所や受傷時の年齢や経験なども、その後の生活に大きく影響を受けることがあります。

岐阜県では二〇一二年から、高次脳機能障がいの方の支援事業を開始しており、ゆうは西濃圏域の相談機関として委託を受けています。

相談に来られる方の中には、長年ご本人やご家族だけで悩みを抱えられ、相談できる場所があることもご存知なかったという方もおられます。高次脳機能障がいの方は働き盛りの四〇〜五〇代の男性に多い傾向もあり、学齢期の子どもさんがいたり、親御さんの介護が必要にな

ってくる年代でもあり、ご本人もご家族もいろいろな悩みを抱えて生活されているように感じます。

高次脳機能障がいについての啓発活動や、専門的に支援を受けることができる医療機関や相談支援体制はこの一〇年で少しずつ進んできているのですが、まだまだ支援につながっていない方が地域にはたくさんおられるのではないかと思います。

事業に関わっている担当者やお医者さんが変わってしまつと、パンフレット一枚ご本人やご家族に届かないことがあるのも課題です。医療・保健・福祉・行政・家族会など様々な支援機関で啓発活動や連携を図りながら、ご本人やご家族の希望する生活が送れるよう、支援をしていきたいと思っています。



みんなの力で作り上げる作品

林町デイセンター 生活支援員 佐藤 祐子

林町デイセンターでは、昨年から創作で作った作品を、大垣市役所に出展しています。昨年度はオリンピックにちなみ、ポップコーングループで製作している手すき紙を使用し、オリンピックの五輪マークを製作しました。今年度は、各グループが力を合わせ何か良い作品を作れないかと話し合い、利用者全員が参加できる作品にしました。たたみ二畳分以上の大きさの紙に、大きな筆でカラフルに色を塗り、ビーズやクラッカー、色紙を使用し、とても綺麗な作品を仕上がりしました。ワンピースグループ、ポップコーングループの皆さんと一緒に作り上げたこの作品名を「友」と決定し、今年も大垣市役所に出展しました。

出展後、感染対策を行いながら少人数で大垣市役所に行き、展示された「友」を見に行くと、「○○さんがこの色塗りましたね。」「○○さんがクラッカーを引いて飾りを散りばめてくれましたね。」と、創作した事を思い出しながら作品を鑑賞することが出来ました。

そして今年度、「友」の作品以外に、新たに全肢連の『あ」と展』に紙すきランプ「smile」を出展しました。

しかし、ランプを作るため型取りから始めてみるもの、上手く行かないことがあります。型取りのため、風船に水ので手すきの紙を張り付けてもすぐに取れてしまう、水のりが乾くのに時間がかかる、自分の思うように柄を作る為には、各色の手すき紙が必要になる。ポップコーングループの皆さんにお願いし、欲しい色の紙を作ってもらえるだろうか…。と、皆さん不安が絶えませんでした。そこで、まずポップコーングループの皆さんに、

ランプ製作のため希望に応じて各色の手すき紙を作ってもらえるか相談したところ、「自分たちの作った手すき紙で素敵なランプが出来たら、是非見せて下さい。お互い頑張りましょう。」と皆さん快く引き受けて下さり、応援の一言も頂けました。それから、なかなかのり付けが上手くいかない時も、のりの量や、乾燥方法を皆さんで色々試し、創作していくうちに、皆さん上手にランプを作る感覚を身に付け、一人一人個性あふれるランプを作ることが出来ました。出来上がった作品を出展すると、見事グループ賞を受賞。皆さんとても喜ばれ、賞状と素敵な作品も頂きました。皆さんが一つになって協力し合い、とても素敵な作品を作る事が出来ました。



紙すきランプ「smile」

全肢連あ〜と展 グループ賞受賞



大垣市役所作品展「友」

「合同職員研修会」

研修委員 柳 葉子

あゆみの家では、全職員を対象とした研修会を年二回実施しています。今年度は、七月と十一月に「ストレスマネジメント」を年間テーマとして実施しました。目まぐるしく変化する社会の中で、メンタルケアの重要性も取り上げられるようになりました。私たち支援者も障がいのある方と同じく生活者です。生活をするという事は、色々な出来事が起き、色々な感情も出てきます。そうした中で、支援者という立場で仕事をする時には切り替え、適切な支援をすることが求められます。しかし、頑張っているけれど心がついていかないこともあります。「私たち支援者が元氣であることが支援の質にも繋がる」という職員の声から、支援者自身にスポットを当てた研修を行うことになりました。

七月は「利用者の幸せのために、私たちの心の健康を大切にしたい」、十一月は「利用者の幸せの為に、私たちができること」をテーマに、「ストレス」や「セルフマネジメント」などの基礎を学びました。グループセッションでは気づいたことや自身の取り組みについて意見交換をし、事業所や法人で出来ることのアイディアも出し合いました。それをもとに各事業所で取り組み、十一月の研修で報告をしました。七月のグループセッションは、久しぶりに対面で事業所の枠を超えたメンバーで行うことができ、ストレスという自分の内面に触れる内容でしたが、どのグループも時間が進むにつれてリラックスした様子で話をするのができ、次も同じメンバーでセッションしたいという声も聞かれました。十一月



7月 事業所の枠を超えた
対面での研修



11月 各事業所で録画視聴
グループセッション

は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響から、残念ながら各事業所で録画での視聴の形となりましたが、事業所の特色を活かした取り組みを共有し多くの学びを得ることができました。また、新型コロナウイルス感染症の影響も重なり多忙な状況ではありましたが、各事業所がしっかりと取り組んでいる姿勢も印象的でした。一人で抱えていることを個人の問題とせず、職員同士や事業所、法人と一緒に考え動くことができる仕組みもまた、メンタルケアに繋がることを改めて実感しました。「みんなが自分らしく幸せな人生を歩んでいただきたい。」

障がいの有無に関係なく、支えている人達もみんなが幸せを感じながら生活ができることを目指し、そのためにあゆみの家の職員として仲間とともに、切磋琢磨していきたいと思っています。

みんなでワイワイ楽しもう！

思い出キラキラクリスマス

クリスマス祝会実行委員長

柚原 知明

十二月と聞いて、多くの方はクリスマスを連想されるのではないのでしょうか。きらびやかなイルミネーションに心弾む音楽、街はクリスマススムードに包まれます。あゆみの家でも、そんなクリスマスを心待ちにしている利用者さんがたくさんみえます。

十月上旬、依然として新型コロナウイルスに関するニュースが世間を賑わす中、今年のクリスマス祝会をどのように開催するか、各事業所の実行委員で話し合いました。全事業所の職員が、みんなで集まって開催したいという思いを強く抱きながらも、あゆみの家でも猛威を振るったコロナウイルスに対して、やはり慎重にならなければならぬという葛藤の末、各事業所をズームでつなぎ開催する運びとなりました。

私たち職員と同じように、利用者さんもみんなで賑やかなクリスマスを通して、利用者の皆さんもみんながそれぞれの思いを今年度のテーマに、どんなクリスマス祝

会にしたいか、クリスマスにどんなイメージを持っているか各事業所で意見を募ると、「みんなで楽しく、笑顔、キラキラ」といった意見が挙がりました。それらを拾い集め、今年度のテーマは『みんなでワイワイ楽しもう！思い出キラキラクリスマス』に決定しました。コロナ禍で思うように集まる事はできないけれど、カメラを通してみんなで盛り上げていこ



クリスマス礼拝



聖書朗読

て楽しめる方もみえました。

クリスマス祝会の楽しみの一つでもある昼食は、今回河合寿司さんのお弁当を注文しました。食べたものを利用者さんからリクエストして頂き、お弁当に詰めていただきました。皆さんの願いが詰まったとても美味しいお弁当になりました。

午後からは、リース作りや一年の振り返りムービーを視聴、プレゼントタイムなど各事業所でクリスマス祝会を楽しみました。美味しいケーキを皆さんで食べ、今年のクリスマス祝会は幕を閉じました。

みんなで集まって行うクリスマス祝会ではありませんでしたが、同じ場所にいらなくても「繋がる」事を感じさせてくれたように思います。



リース作り

うという思いで、職員・利用者一致団結し、準備を行っていただきました。当日、皆さんに描いていただいたクリスマスイラストから出来上がった素敵なパンフレットを手に、午前中は礼拝とゲストの方による演奏を聴きました。大垣市を中心に精力的に活動されている「O'sアンサンブル 風(かぜ)」による演奏は、クリスマス定番曲から歌謡曲に至るまで、様々な楽器を使って演奏してくださり、利用者さんの中には、一緒に歌われる方や手拍子を叩い

出来事ピックアップ



11/17 (木)
林町デイセンター ワンピースみかん狩り



11/29 (火) デイセンターあゆみの家
キッチンカー(河合寿司)



12/24(土)
第二あゆみの家 プチ運動会



12/24(土)
林町デイセンター 忘年会



1/7 (土)
デイセンターあゆみの家 書初め・福笑い



1/30 (月)
ぐっとらんど 綾里幼稚園買い物交流

最近のできごと (11/1~1/31)

- 11/12 (土) 合同職員研修会 (法人全体)
 11/17 (木) ワンピースG 1日外出(みかん狩り)
 (林町デイセンター)
 11/22 (火) 東海・北陸ブロック会議
 (就業・生活支援センター)
 11/29 (火) キッチンカー (河合寿司)
 (デイセンターあゆみの家)
 11/29 (火) ドリームグループ1日外出
 (ぐっどらんど)
 12/ 5 (月) やきいも (デイセンターあゆみの家)
 12/ 6 (火) 総合防災訓練 (第二あゆみの家)
 12/14 (水) 企業チャレンジ 見学会
 (就業・生活支援センター)
 12/16 (金) 障がい者就業・生活支援センター
 連絡協議会 (就業・生活支援センター)
 12/17 (土) クリスマス祝会 (法人全体)
 12/24 (土) 忘年会 (林町デイセンター)
 12/24 (土) プチ運動会 (第二あゆみの家)
 12/26 (月) クリスマス礼拝 (法人全体)
 1/ 7 (土) 新年会【書初め、福笑い】
 (第二あゆみの家)
 1/ 7 (土) 新年会 (ぐっどらんど)
 1/ 7 (土) ふくわらい&書き初め
 (デイセンターあゆみの家)
 1/ 7 (土) 成人式&新年会 (林町デイセンター)
 1/30 (月) 綾里幼保園お買い物体験
 (ぐっどらんど)

行事予定

4/8 (土) 創立記念行事

ボランティア (11/1~1/31)

新型コロナウイルス感染防止対策のため、しばらくの間、受け入れを停止させていただいております。

ふれあい交流 (11/1~1/31)

延べ：1回 <学校名> 綾里小学校

共同基金 配分事業

今年度12月23日(金)、岐阜県共同基金会より配分を受け、「林町デイセンター」で使用する車両(車種はトヨタ ハイエース)を購入することができました。

この車両は主に施設利用者様の送迎等に活用させていただきます。みなさまの善意に感謝申し上げます。ありがとうございました。

**編集後記**

昔の人は1月、2月、3月をこんなふうに言いました。「1月は、行ってしまう。2月は逃げてしまう。3月は去ってしまう。」と。それくらい、この時期はあっという間に時間が過ぎてしまいます。

最近、こんなことを聞きました。英語で今日、現在というのは **present** というそうです。これは神さまからのプレゼントだそうです。今日という日は神さまが与えてくださった大切な一日です。毎日、毎日、慌ただしくあつという間に過ぎてしましますが、神さまが与えてくださった今日というプレゼントを日々大切に過ごしていきたいと思います。また、利用者みなさんにとっても、毎日がよい一日一日でありますように！ (伊藤)

編集：社会福祉法人あゆみの家

〒503-2123 岐阜県不破郡垂井町栗原2066-2

Tel 0584-22-4333 (代) FAX 0584-22-4344

URL <https://ayumi-ie.com/>E-mail ay464h@he.mirai.ne.jp**グループホームのご案内**

●あゆみホーム

大垣市三塚町

●めぐみホーム

不破郡垂井町表佐

●東神田ホーム

不破郡垂井町東神田

●別庄ホーム

養老郡養老町橋爪

●養老公園ホーム

養老郡養老町養老

●綾野ホーム

大垣市綾野町

●表佐ホーム

不破郡垂井町表佐

●習南ホーム

不破郡垂井町表佐

●あいかわホーム

不破郡垂井町